

意思疎通困難な寝たきりの高齢者に対する援助の視点 — 介護職員との「ケア」の関係性に着目して —

種橋 征子* 同志社大学大学院文学研究科**

本研究は、介護老人福祉施設の介護職員を対象に、重度の認知症等で意思疎通困難な寝たきりの高齢者（以下、利用者と記す）との関わりについてインタビュー調査を実施し、両者間に「ケア」の関係性が存在することを示し、両者にとっての「ケア」の意味、さらに、彼らが社会関係を持ち続けることを援助するために、介護職員が持つべき視点について示唆を得ようとした。その結果、介護職員は利用者がわずかに示す応答にも自信を得たり、彼らと関わろうとする志向を高めるなど、Mayeroffが示すように利用者をケアすることで精神的な成長を図っていた。利用者にとっては、自分に向き合う介護職員からの働きかけに安心し、心穏やかでいられること、すなわち、関わりを通して居場所が得られることが「ケア」の意味である。このように、意思疎通困難な寝たきりの利用者と介護職員の間にも相互作用は存在し、それは、利用者が他者と共に生きる社会的存在であることを示している。しかし、利用者の「ケア」の関係性における変化は、介護職員がその人を理解しよう、独自性を持つ一人の人として向かい合おうとしなければ容易には促されず、気づくことも出来ない。このため、利用者の応答の有無や業務の忙しさに関わらず、短時間でも利用者に関わりを持つこと、働きかけることが重要で、それが利用者が最期まで社会的存在として生きることを援助することである。

キーワード ⇒ 意思疎通困難な寝たきりの高齢者, 介護職員, ケア